

やまと
大和農地環境保全会

やまとそん
(鹿児島県大和村)

- 本地区は、主としてすももやたんかんの果樹栽培が盛んに行われる一方、野菜類生産も行われている。高齢化が進む中、今後とも農業振興を図るためには、農地や農道・水路等の農業用排水施設、農村環境を地域共同活動により適切に保全管理することが必要である。
- 本会は、設立当初、集落及び農地が点在しており、高齢者が多い集落もあることから、集落単位での活動組織設立が困難なため、8地区を1つにして、大和農地環境保全会が発足した。
- 本会は、農家及び非農家の住民と協力して、農道の草刈、農業用排水路等の泥上げ清掃活動等の維持管理作業を行っている。

・取組面積：52.7ha（畑52.7ha）

・資源量：開水路 6.7km、農道 24.6km
パイプライン 36.4km

・主な構成員：農業者 非農業者

・交付金：約152万円(R2)

農地維持支払 105万円

資源向上支払 47万円

活動開始前の状況や課題

- 高齢化に伴い、農業用排水施設や農道の維持管理を行うことが難しいことから、地域で一体となって管理する必要があった。
- 台風や大雨等の災害時には、堆積した土砂等の影響により、水路が冠水し、農業用水取水口等の土砂堆積の影響で通水できない等の影響が出てきた。



取組内容

- 農業用水取水口の土砂堆積は、重機による土砂除去や、複数名による作業で堆積した土木等の除去・泥上げ等を実施した。
- 土砂が流出して、側溝として機能していない箇所については、重機進入困難な箇所は、手作業にて土砂(泥)上げを実施した。
- 各地区による作業にて、農道・農用地法面の草刈りを実施し、維持管理を行った。
- 活動開始前には、徹底した打合わせを実施し、地区の情報共有を図った。



取組の効果

- 台風や大雨の災害後の点検を行い、異常がある箇所への作業を実施し、早急な対応が図られ、営農環境が守られている。
- 共同活動を行うことにより、構成員の農業用施設の保全の意識の高揚が図られている。
- 農道等への植栽活動を行うことにより、集落の景観が維持されている。





付帯施設周辺の管理作業



取水口の清掃作業



側溝の清掃作業



農道の草刈作業

きっかけ

- ・高齢化や担い手不足により農地周辺の環境維持の困難
- ・各集落の活性化

Step1 (~H18)

大和農地環境保全会 発足前

- 高齢化が進み、農業用排水施設等の維持管理が困難になりつつあった。
- 台風や大雨等の災害時には、堆積した土砂等の影響により、水路の冠水や農業用水の断水等影響があった。

Step2 (H19~H25)

大和農地環境保全会 発足

- H19より農地・水・環境保全国上対策事業に取り組む。
- 8地区を1つの組織として、各地区で活動を実施し、農業用施設や農道の維持管理、景観形成活動等を行う。

Step3 (H26~)

農業施設の維持管理に対する取組の強化

- H26より多面的機能支払交付金事業となったことをうけ、継続して活動を実施する。
- 農業関連施設の維持管理についても取組を強化



新規就農者との共同作業



青年との共同活動

将来に向けて

- 今後も共同活動の継続実施により、地域資源の保全是、地域で取り組む意識の醸成を高めていきたい。
- 今後は、共同活動を通じた話し合い活動等を行い、地域の農業(農地)は地域で守るという意識の高揚を図りたい。

今後の展望

Step5

新規就農者の作業参加

- 青年の就農により、活動を共同で行い、コミュニティの強化を図ることができた。
- 本活動を通して情報交換等を行いながら、営農意欲向上を図るとともに、就農相談体制が整っている。

Step4 (H29~)

第3期が始動

- 高齢化による作業継続が難しい状況にあった数地区も、集落の青年を誘い共同で草刈作業等を行い、地域の農業用施設を地域で守ることができた。
- 集落の若者を活動へ巻き込むことにより、農業の魅力発信も行っている。